

コード No.28033

**Anti-Human  
PRAS40 (P238) Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 100 µg

はじめに : PRAS40 (proline-rich Akt substrate of 40 kDa)はプロリンに富む領域を持ち SDS-PAGE 上約 40 kDa を示すタンパク質です。当初 PKB/Akt の基質として同定されましたが、後に mTORC1 (mTOR および mTOR による基質のリン酸化反応に必須な足場タンパク質 raptor を含む複合体)によってもリン酸化されることが示されました。PRAS40 は mTOR の基質である p70 S6 キナーゼや 4E-BP1 と同様にその構造中の TOS モチーフを介して raptor と結合し、mTORC1 により 183 番目のセリン(残基番号はヒト)がリン酸化され、リン酸化された PRAS40 は raptor から解離します。従って PRAS40 は PKB/Akt のみならず mTOR を介するシグナル伝達経路にも関与すると考えられています。

免疫抗原 : Human PRAS40 の C 端部分合成ペプチド (DLPRPRLNTSDFQKLKRKY)

精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製

包装形態 : 1 % BSA、0.05 % NaN<sub>3</sub> 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定

安定性 : 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

使用目的及び : ウェスタンブロッティング 0.5~3 µg/mL にて使用可能

使用方法 : 免疫沈降法 1~3 µg/mL にて使用可能

参考文献 : 1. Oshiro N, Takahashi R, Yoshino K, Tanimura K, Nakashima A, Eguchi S, Miyamoto T, Hara K, Takehana K, Avruch J, Kikkawa U, Yonezawa K. The proline-rich Akt substrate of 40 kDa (PRAS40) is a physiological substrate of mammalian target of rapamycin complex 1. J Biol Chem. 2007 Jul 13;282(28):20329-39.